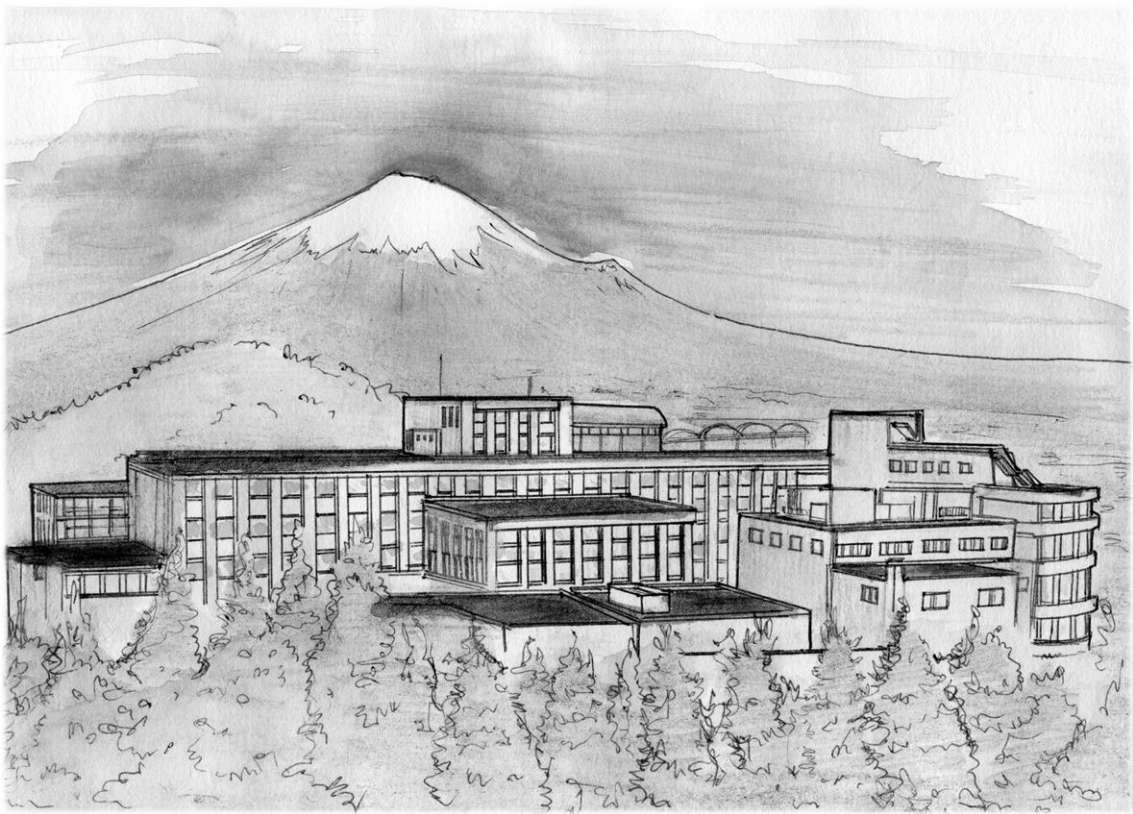


平成 29 年度

共立蒲原総合病院年報



共立蒲原総合病院の理念

1. 地域中核病院として、地域住民のニーズに対応した適正な医療を提供する。
2. 患者中心の全人的医療を提供する。
3. 健全な収支の確立に努める。
4. 職員が働き甲斐・誇りをもてる職場を構築し、医療水準の向上に努める。

共立蒲原総合病院の方針

1. 病院中期経営計画の目標を達成する。
2. チーム医療を促進する。
3. 経営資源を適切に活用する。
4. 倫理観を持って行動する。

第7号の発行にあたって

院長 西ヶ谷 和 之

平成29年度は国全体としてさまざまな動きがありました。2025年問題を見据えた診療報酬と介護報酬の同時改定が次年度に施行されるため、どれくらい厳しい改定の内容になるのか、その中身が発表されるまで大きな関心事でありました。新専門医制度の開始が延期されたため、専攻医の登録が今年度の10月と1月からの2回に分けて行われました。

地域医療構想調整会議が富士圏域でも引き続いて開かれ、医療供給体制を再構築することや、次年度から始まる第8次静岡県保健医療計画が練られ作成されていきました。その会議の中で地域医療構想を踏まえた「公的医療機関改革プラン（平成29年度～平成32年度）」の作成要請もあり、また地域包括ケアシステム構築に向けての医療圏での会議がようやく始まりました。

そして、政府の働き方改革についての議論が医師に関しても本格的に始まった年でもありました。医療費削減と将来の医療体制のあり方が密接にリンクしており、今後も予断の許さない状況が続くことと思われまます。

当院においては、今年度は院内のインフラを大々的に整備した年でした。デジタルマンモグラフィの更新（F P D）・デジタルX線撮影システム更新（F P D）・X線一般撮影装置更新など、医療ニーズに沿った新たな医療機器の導入及び老朽化した医療機器の更新を行いました。

当院では平成9年にオーダーリングシステムを導入しましたが、長らく診療記録だけは電子化されていませんでした。電子カルテシステム導入準備のために約2年近くを費やし、そして平成30年1月1日から稼働することができました。準備から導入、そして円滑な運用まで、職員全員の多大な労力と協力があってやり遂げることができました。今後は電子カルテシステムのメリットを十分生かし、その恩恵にあずかることができるようにしていきたいと考えています。

また、当院は昭和58年5月に旧蒲原町から現在地に移転し、本館は移転後34年が経過したため今年度、本館の外壁の改修工事を行い、補強だけでなく外壁の色も新しく塗り替えてきれいになりました。

経営においては、入院患者の平均在院日数は、昨年度から1.0日減少し、12.5日と初めて12日台となりましたが、病院全体で稼働率は85.2%と昨年度と比べて微増でした。一日の入院患者数の大きな変動はありませんが、外来患者数は減少傾向にあります。病院事業収益全体としては前年度と比較して増でしたが、費用全体としては人事院勧告による給与、賞与引当金、法定福利費の増などで、実質収支は3億7,956万円余の純損失でした。昨年度と比較し純損失が約2億円増加し、黒字化をめざすためには、人件費の伸びがあっても、収益増でそれをカバーできるように尚一層の努力や工夫が必要であることを感じました。

院内の人事については、新たに2名の常勤医師が加わりましたが、まだまだ非常勤医師に依頼している診療科が多く、さらなる常勤医の増加が望まれます。引き続き非常勤医の仕事を常勤医にゆだねられるように医師の招聘が必要と考えています。共立蒲原総合病院医学生修学資金貸与制度に基づき、平成29年度の計画どおり、1名の医学生（医学科5年生）に貸与を開始し、合計3名の医師に貸与を行いました。

今後も地域の疾病予防・医療・福祉の将来に貢献できるように可能な限り努力し、当院の医療の質の向上と維持に心がけながら、健全な経営にもなお一層努力していきたいと思ひます。

目次

共立蒲原総合病院の理念

共立蒲原総合病院の方針

第7号の発行にあたって（院長）

I 概要・沿革	3 損益計算書	26
1 概要	4 貸借対照表	28
2 沿革		
II 現況	IV 診療統計	
1 組織図	1 入院	
2 職員数	(1) 入院総括	30
3 正規職員平均年齢	(2) 診療科別入院患者数	30
4 建物案内・平面図	(3) 病棟別入院患者の状況	31
(1) 建物案内	(4) 診療科別・年齢別入院患者延数	33
(2) 平面図	(5) 地区別・診療科別入院患者延数	34
5 施設概要	(6) 地区別入院患者延数（5年間）	34
6 設備概要	2 外来	
7 主な医療機器	(1) 外来総括	35
(1) 病院	(2) 診療科別外来患者数	35
(2) 健康診断センター	(3) 診療科別・年齢別外来患者延数	36
8 病床数	(4) 地区別・診療科別外来患者延数	37
9 診療科目	(5) 地区別外来患者延数（5年間）	37
10 診療受付時間	3 救急医療	
11 診療サービス区分	(1) 診療科別患者延数	38
12 施設指定等	(2) 診療科別・月別患者延数	39
13 各学会認定（指定）施設	(3) 地区別・月別患者延数	40
14 病院開設許可等	4 手術	
15 施設基準	(1) 診療科別・年度別手術件数	41
(1) 基本診療料	(2) 診療科別・月別手術件数	41
(2) 特掲診療料	(3) 診療科別・月別麻酔件数	41
16 病院組合議会	(4) 診療科別・内容別手術件数	
17 院内会議及び委員会	① 内科	42
18 病院情報システム	② 外科	42
	③ 整形外科	43
	④ 脳神経外科	43
	⑤ 眼科	44
	⑥ 耳鼻いんこう科	44
	⑦ 内視鏡センター	45
III 経営	5 人工透析センター	46
1 業務概況	6 死亡件数	
(1) 業務の状況	(1) 診療科別死亡件数	46
(2) 事業収支について		
(3) 資本的収支について		
2 業務実績		

目次

(2) 死亡及び剖検件数	46	15 地域医療支援室	
7 薬局		(1) 診療科別紹介患者延数	66
(1) 処方箋枚数、錠数、疑義照会件数	47	(2) 紹介率・逆紹介率	66
(2) 服薬指導	47	(3) 医療相談	67
(3) 院内製剤	47	16 医療安全への取り組み	70
8 検査科	48	17 感染防止への取り組み	74
9 放射線科			
(1) 年度別検査件数	49	V 看護部	
(2) 医療機器共同利用件数	49	看護部総括	79
(3) 健康診断センターにおける年度別検査件数	49	1 看護部理念の改定	79
10 リハビリテーション科		2 各部署の年間目標に対する評価	
(1) リハビリ処方箋件数	50	(1) 看護部	79
(2) 診断名別リハビリ処方患者実数	50	(2) 外来	83
(3) 年度別リハビリ件数	51	(3) 東2病棟	84
11 栄養管理科		(4) 西2病棟	85
(1) 栄養指導件数	52	(5) 東3病棟	86
(2) 給食数	53	(6) 西3病棟	88
(3) N S T 報告	53	(7) 本4病棟	89
12 訪問看護ステーション		(8) 新3病棟	90
(1) 訪問対象者	54	(9) 人工透析センター	91
(2) 年齢別訪問対象者	54	(10) 手術室	92
(3) 医療機関別訪問対象者	54	(11) 訪問看護ステーション	93
(4) 訪問看護対象者の状況	54	(12) 健康診断センター	94
(5) 月別訪問利用者延数	55	2 看護部教育院外研修	95
(6) 地区別利用者実数	55	3 院内看護研究会	97
(7) 訪問対象者の主な疾患	56	4 認定看護師の活動報告	
(8) 訪問看護の内容	56	(1) 感染管理認定看護師	98
(9) 対象者が受けている医療内容	56	(2) 救急看護認定看護師	100
13 健康診断センター		(3) がん化学療法看護認定看護師	101
(1) 年度別受診者実数	57	(4) 皮膚・排泄ケア認定看護師	102
(2) 項目別悪性所見発見者数	57	(5) 透析看護認定看護師	104
14 診療録管理室		(6) 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	105
(1) 疾病統計		(7) 認知症看護認定看護師	106
① 疾病別・診療科別入院患者実数	58	(8) 緩和ケア認定看護師	107
② 疾病別・年齢別入院患者実数	59		
③ 診療科別・疾病頻度順入院患者状況	61	VI 研究	
(2) 手術統計	63	1 医局	
(3) 死亡統計	65	(1) 学会・研修会等出席者数	108
(4) 医療情報の開示	65	(2) 著書・刊行論文	108
		(3) 学会及び研究会報告	108

目 次

(4) 対外活動	108
2 診療技術部	
(1) 学会・研修会等出席者数	110
(2) 著書・刊行論文	110
(3) 学会及び研究会報告	110
(4) 対外活動	110
3 看護部	
(1) 学会・研修会等出席者数	112
(2) 著書・刊行論文	112
(3) 学会及び研究会報告	112
(4) 対外活動	112
VII その他	
1 年間行事	113
2 平成29年度蒲原病院健康フェスタ	119
3 市民公開講座	120
4 蒲原病院だより	120